

茨城県かすみがうら市でリーサスを活用した政策立案ワークショップを開催しました

平成29年1月

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

内閣府地方創生推進室

経済産業省関東経済産業局

茨城県かすみがうら市にて、観光や農業政策に携わる職員を対象に、「地域経済分析システム (RESAS)」を活用した政策立案ワークショップを下記の通り開催しました。観光分野の専門家である公益財団法人日本交通公社 観光政策研究部 次長 山田雄一氏の参加を得て、かすみがうら市の課題を見える化し、密な意見交換を通じ、職員が地域経済分析に基づき広域連携も含めた観光分野の政策企画・立案の重要性を考える契機となりました。

記

1. テーマ：地域資源を活かした「観光」と「6次産業化」の振興
2. 日時場所：平成28年10月21日（金）
かすみがうら市役所霞ヶ浦庁舎、大会議室
3. 主催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
内閣府地方創生推進室
共催：経済産業省関東経済産業局
4. 参加者：
 - ・かすみがうら市職員（副市長、地方創生・事業推進担当理事、政策経営課、農林水産課、観光商工課）
 - ・公益財団法人日本交通公社 観光政策研究部 次長 山田雄一氏
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員
 - ・経済産業省地域経済産業グループ職員
 - ・経済産業省関東経済産業局職員
5. 議事次第
 - ①自治体職員によるリーサス分析結果発表
 - ②有識者によるリーサス分析結果発表
 - ③政策ディスカッション

1. ワークショップ実施の背景

- かすみがうら市は、生産と域外からの流入により得た所得が、消費や投資支出で域外に流出してしまう地域循環構造となっている。主要産業である一般機械や一次金属等の製造業は大企業が多く、域外仕入・域外販売が基調である。地域内でのマネーの循環を拡大するためには、地域の企業が地域の資源を使って域外マネーを稼ぐことができる産業の育成が必要である。
- そこで、域外マネーを稼ぐ産業として特化係数や労働生産性も高く競争力が維持されている農業に着目し、リーサスや他の統計データを活用した分析によって、農林水産物を核として観光、6次産業化への展開を客観的に捉え、霞ヶ浦湖畔の自転車道や果樹類を資源とした域外マネーの獲得と地域経済循環の拡大を図る産業政策のあり方についてワークショップでディスカッションを実施した。

2. 議論のポイント・得られた結論・今後の展開

- 地域経済分析の結果、地域資源であるサイクリングと果樹類等を組み合わせた観光施策によって、3次産業の付加価値の部分が高められないかと考えた。
- 本市の課題としては、農業は担い手不足の問題を抱えており、製造業についても、大企業は域外取引が多く移転リスクを抱えていることである。また、消費も流出している。
- 農業や食料品製造業といった地域の企業等が事業を継続、拡大するために、食品加工の共同設備導入を支援し、6次産業化によって付加価値を高めていくような環境づくりが重要である。
- 本市は観光農園の発祥の地とも言われている。農家は直接消費者に販売するチャンネルを持ち、販売単価を決めることができるので、付加価値が高い。また、サツマイモを独特な製法で焼き芋として加工、消費者に直接販売して付加価値を高めている6次産業化の成功例もある。
- 観光のコンテンツとして掲げるサイクリングは、健康志向が社会の潮流となり、十分集客の見込みはあるが、先行してブランドを確立している地域に対し競争力を有する取組みが必要であり、かなり知恵を絞る必要がある。
- 先行地域では、サイクリングに異常なまでの情熱を持つ人材が中心となって、市民も巻き込みサイクリングを日常的に楽しむ文化が育まれている。サイクリングが地域で日常化すれば、域内での自転車関連の小売店やウェアをデザインする企業などの創業も期待できる。さらに市民への新しい消費の提案により、域外への消費流出を減少させる効果が期待できる。地元の人が霞ヶ浦湖畔のサイクリングをごく普通に楽しむようになれば、域外から来た人も体験してみたくなり、サイクリング文化が定着していく。地元市民が自ら果物狩りやサイクリングに親しむ仕掛けは重要である。
- 本市の人口の社会増減を年齢別に見ると、20歳前後に進学で減少した層が働くために20代で戻っているが、住宅を購入する30代で再び市外に出て行く傾向にある。ベッドタウンとして市民に住み続けてもらうために、地域コミュニティとのつながりを高める政策も必要である。
- 行政の枠にとらわれず、広域連携の視点も重要である。サイクリングロードまでのアクセスや宿泊施設の立地状況を考えると隣接する土浦市との連携は効果が大いのではないかと。土浦市との関係は友好的で、互いに連携の必要性も認識している。

【参考資料】自治体職員によるリーサス分析内容

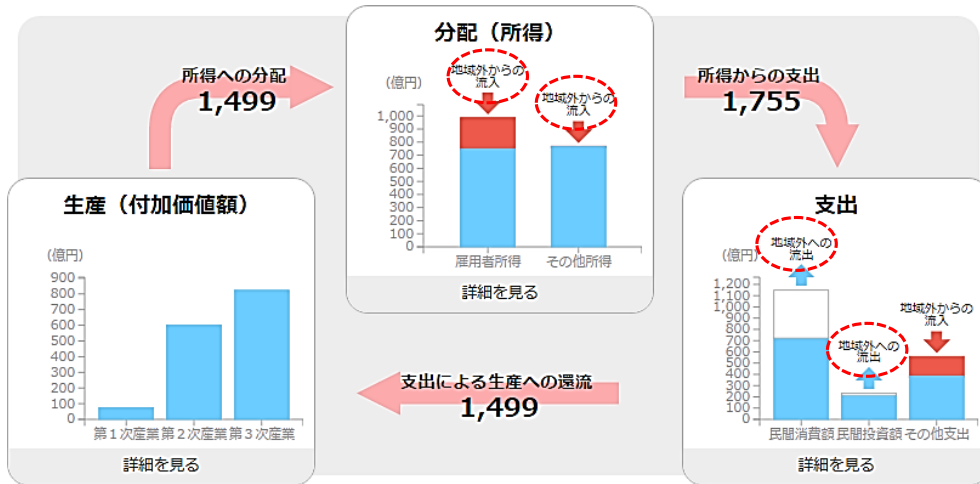
市の特徴（地域経済循環）

- かすみがうら市には地域外から所得が流入しているが（約256億円）、それ以上の規模で地域外に民間消費・投資が流出している（約441億円）。

地域経済循環率
85.4%

地域経済循環図
2010年

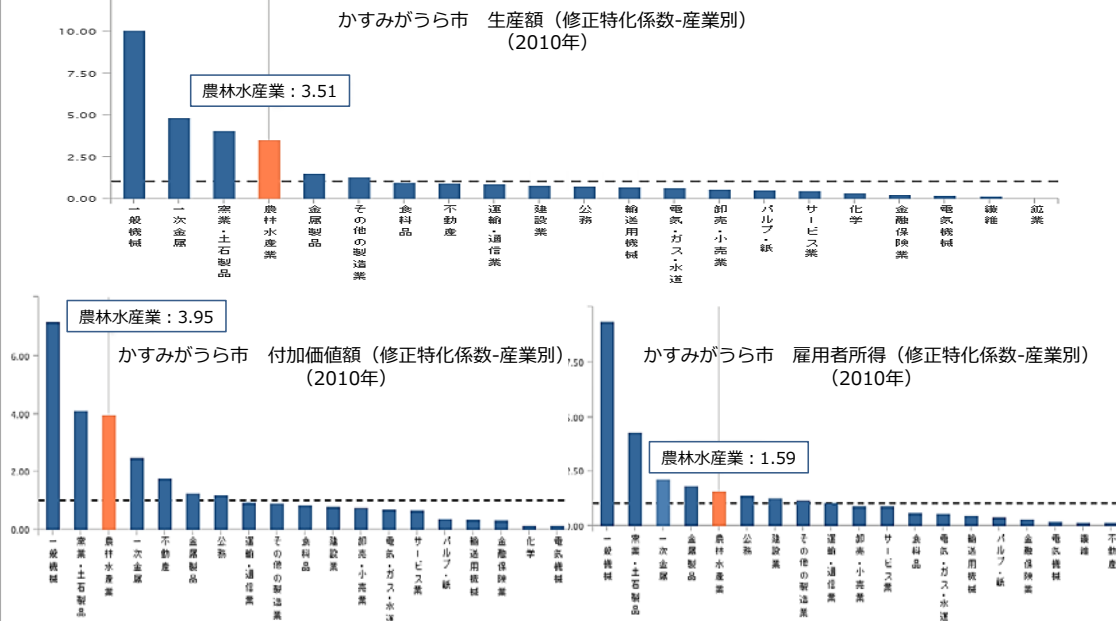
指定地域：茨城県かすみがうら市



出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

市の産業構造（特化係数）

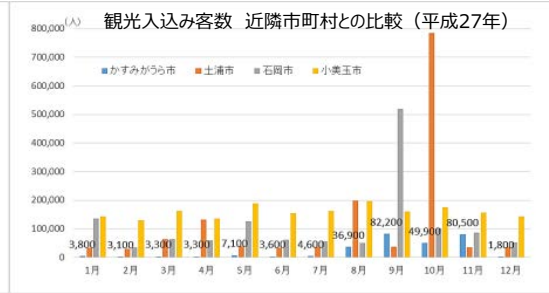
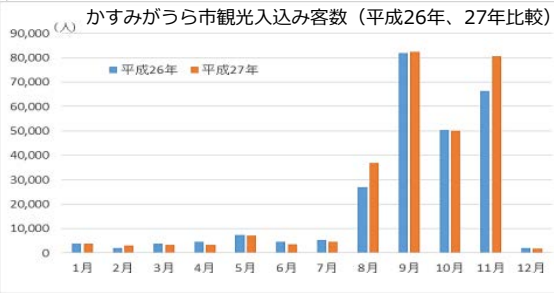
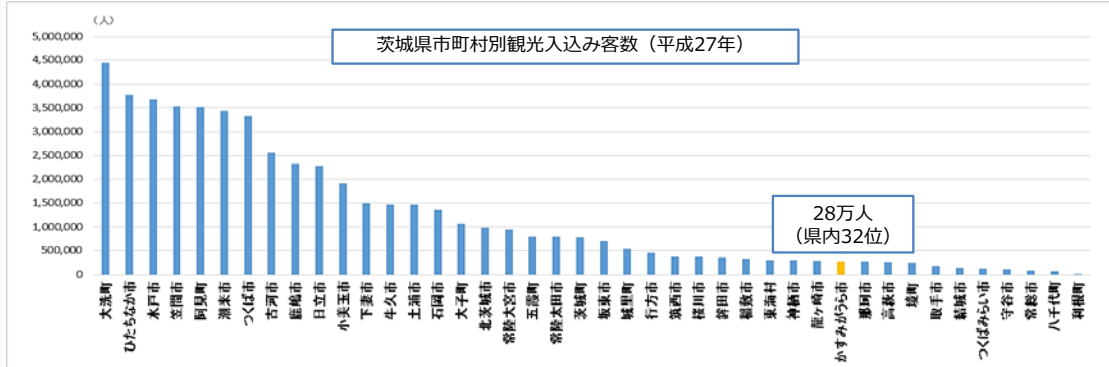
- 製造業では、一般機械、一次金属、窯業・土石製品、金属製品が生産額、付加価値額、雇業者所得においても特化係数が高い。農林水産業の特化係数も、いずれの指標においても1を超える。



出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

地域資源を活かした「観光」と「6次産業化」の状況（入込み客数）

観光入込み客数は県内下位。果樹狩りの最盛期でイベントも重なる8月～11月以外の入込みは低調。

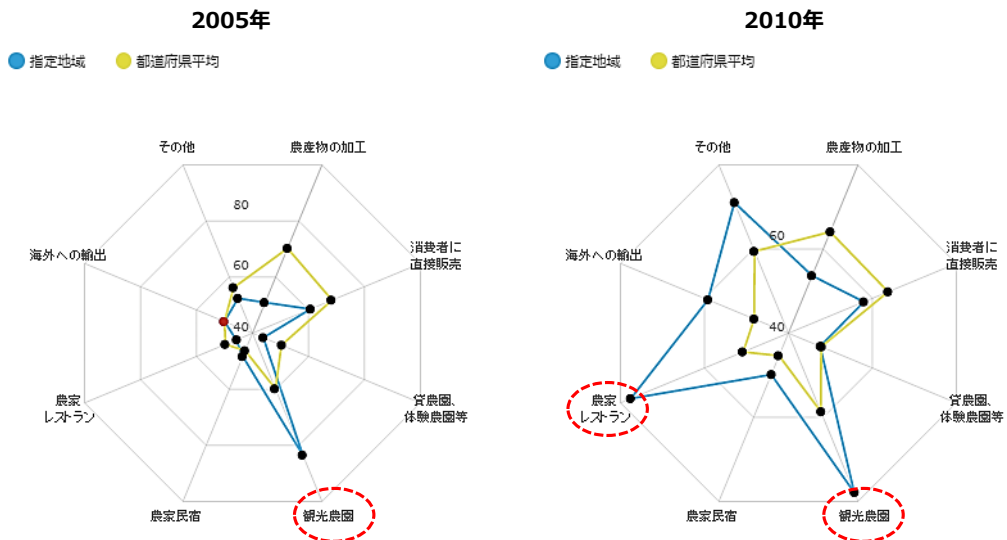


出典：茨城県「茨城の観光レクリエーション現況」（平成27年観光客動態調査報告）

地域資源を活かした「観光」と「6次産業化」の状況（農業と観光）

- 市内においては観光果樹園（栗、なし、ぶどう等）が数多く営業。近年は果樹園内で飲食サービスを提供する「農家レストラン」としての営業形態も増加しており、観光客の人気を博している。

農業生産関連事業の実施状況（レーダーチャート）



出典：農林水産省「農林業センサス」再編加工